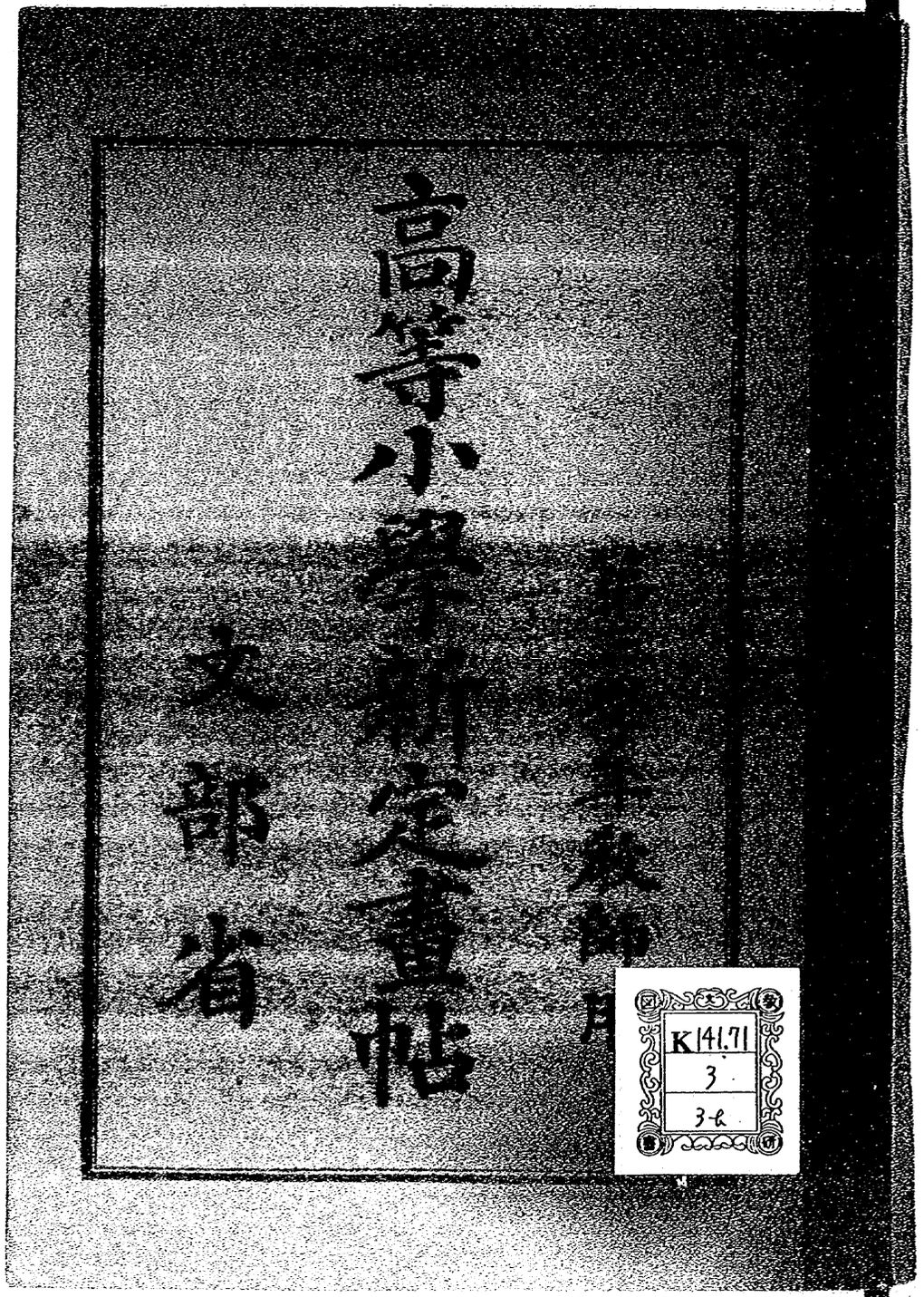


K141.71
3
3b

高等小學新定畫帖

第三學年教師用

文部省

K141.71
3
3-6

高等小學新定畫帖

第三學年教師用

文部省

大正
2. 3. 24
内交

凡例

一。本書は尋常小學新定畫帖に連絡して高等小學校圖畫科の教科書に充つるため編纂したるものにして、各學年とも教師用書と兒童用書との二種とす。

二。本書教師用は一學年間の教授週數を四十週とし毎週教授時間を一時間として之に相當する分量の教材を選擇し總べて之を説明したり。兒童用書には教師用書に説明したる材料の中につきて臨畫せしむるもの及び寫生並びに考案畫の參考資料として必要なる材料を選出して之を掲げたり。

三。本書は尋常小學新定畫帖と同樣に鉛筆畫・毛筆畫てふ用具上よりの區別を廢し、鉛筆と毛筆との何れをも使用せしむることとしたり。

四。自在畫の教授を完全にせんには、時時尺度・三角定規・コンパス等を用ひて正確なる形態を畫かしむることも亦必要なるを認め、左表の如き配當によりて是等の器具の使用にも慣れしめんことを期したり。

學校別	學年別	尋常小學校	高等小學校
第一學年	第二學年	ナシ	尺度
第三學年	第四學年	尺度 三角定規	尺度 三角定規 コンパス
第五學年	第六學年	同上	同上
第一學年	第二學年	同上	同上
第三學年		同上	同上

用器畫と自在畫との教授時間の割合は凡そ左表の如し。

學校別	學年別	尋常小學校	高等小學校
第一學年	第二學年	自在畫 一〇〇	用器畫 一〇〇
第三學年	第四學年	自在畫 八五	用器畫 一〇 九〇
第五學年	第六學年	自在畫 八五	用器畫 一五 一〇〇
第一學年	第二學年	自在畫 八五	用器畫 一五 一〇〇
第三學年		自在畫 七五	用器畫 二五 一〇〇
		自在畫 七五	用器畫 二五 一〇〇
		自在畫 七〇	用器畫 三〇 一〇〇

五。圖畫の種類を臨畫寫生・記憶畫考案畫の四種とし、其の教授時間は凡そ左表の

如き割合によりて各學年の教授題目を選擇したり。

學校別	學年別	尋常小學校						高等小學校		
種別		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	第一學年	第二學年	第三學年
臨畫		二五	三五	四〇	三五	二五	二〇	一〇	一〇	
寫生		二五	二五	三五	四〇	五〇	五〇	六〇	六〇	六五
記憶畫 考案畫		五〇	四〇	二五	二五	二五	三〇	三〇	三〇	三五
合計		一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

六。本書に選擇したる寫生材料は各地方にて成るべく得易きものを標準として選擇したり。然れども土地によりては尚得難きものあるべければ便宜之を變更するも可なり。

七。季節と關係ある教材は十分注意して之を排列したれども、地方によりては尚變更すべき必要あるべければ、適切の時期に於て便宜之を教授すべし。

八。本書は技術の練習に注意したるが故に、植物類・昆虫類等の如き種類により、同一種類のものを或時期間連續して練習せしむることになしたり。

九。本書の教師用書にありては、教授上の便を計りて、各課とも要旨・準備・教授の三項目に分ちて記述し、教授の項は更に觀察・說明・問答・畫方・注意等の小項目を掲げ、觀察・說明・問答等の要點並びに畫方の方法を述べ、又描寫の際兒童が陷り易き弊並びに將來心得置くべき必要條件等を記したり。各項とも記述事項を一括して記したるが故に教授者は之を分解して便宜の教授案となすべし。

一〇。本書には畫用紙の廣さを定めず。されば教授時間の長短、用具の大小、圖畫の粗密等によりて便宜之を定むべし。

一一。本書の兒童用書には毛筆若しくは鉛筆のみにて畫きたる畫を掲げたれども、便宜木炭其の他の材料を使用せしむるも可なり。

目錄

第一學期

第一課　花（寫生）（兒童用第一圖）……一
第二課　模樣（考案畫）（兒童用第二圖第三圖）……三
第三課　器物工作圖（寫生）（兒童用第四圖）……六
第四課　製圖用色圖（說明）（兒童用第五圖）……九
第五課　果物（寫生）（兒童用第六圖第七圖）……一一
第六課　景色（寫生）（兒童用第八圖第九圖）……一四

第二學期

第七課　器物（寫生）（兒童用第十圖）……一八
第八課　植物（寫生）（兒童用第十一圖）……二〇
第九課　模樣（考案畫）（兒童用第十二圖第十三圖第十四圖）……二三
第十課　圓柱相貫體の工作圖（說明と考案畫）……二五

第十一課　模樣（考案畫）……二七
第三學期
第十二課　器物（寫生）……二九
第十三課　器物と模樣（考案畫）……三〇
第十四課　家具工作圖（寫生）……三〇
課外　瓦葺住宅の工作圖……三二

高等小學新定畫帖　第三學年教師用

第一學期

第一課　花（兒童用第一圖）

寫生　三時間

要旨　諸方面より見たる形の滿開及び半開の花並びに蕾の畫方練習をなす。

準備　枝につきたる花。

教授

一、觀察と説明

滿開の花、半開の花及び蕾を有する枝を各兒童に與へ、之に

つきて種種なる方面より觀察せしめ、見る方面と形狀の變化との關係を知らしめ、一箇の花と蕾とにつきて十分研究せしむべし。

兒童用書第一圖に掲げたる櫻花は參考圖なり。されば本圖につきて、滿開の花は圓、半開の花は半球、蕾は球が見らるる方向によりて變形すると同樣の變化をなせることを知らしめ、更に花及び蕾の高低明暗並びに葉の表裏を表す彩色法を知らしむべし。

花の暗部は淡赤色に極めて淡き紫色を加へたるものにて彩色し、葉の暗部は若葉の赤綠色なるが故に岱赭色に淡墨を加へたるものにて彩色したり。

本圖の背景に於て下方を濃く上方を淡く隈取したるは、櫻の枝の空中にある一部を畫きたることを表さんがために、空を淡く明くしたるものなり。

二。注意

本課は第一時に半開の花、第二時に滿開の花、第三時に滿開・半開の花及び蕾のつきたる一枝の花を畫かしめ、或は三時間を通じて一枝に滿開・半開の花及び蕾のつきたるものを畫かしむるも可なり。

第二課　模樣（兒童用第二圖第三圖）

考案畫　三時間

要旨

前課にて寫生せしめたる花を應用して、日本風の單獨模樣を

考案せしむ。

準備　單獨模様の參考圖。

教授

一。觀察と說明

兒童用書第二圖及び第三圖につきて、單獨模様の組立方及び彩色方を知らしめ、後各自に工夫せしむべし。

第二圖(一)は笹菱と稱するものにして二種類の笹の葉を菱形に對照せしめて置きたるもの、(二)は丁子として丁香樹の蕾の形を一點の周圍に八箇排べたるもの、(三)は龍膽唐草として高さ五六寸計の龍膽と稱する野生の草の花を便化して葉の上に排列したるものなり。左右に出でたる蔓を唐草と稱す。(四)は桔梗にして繪畫的の單獨模様、(五)は菊水にして楠木

家の旗の紋、(六)は五七の桐の紋、(七)は櫻花を四方に出して畫きたる花紋、(八)は澤瀉と稱する水草の葉を左右對照に組合せたるもの、(九)は櫻、(十)は今出川家三楓として槭の葉を三方に出したるもの、(十一)は橘として橘の實と葉とを便化したるものなり。

第三圖(一)は義貞朝臣畫像袴の模様なる蜻蛉、(二)は天馬として法隆寺水瓶の模様、(三)は錦譜中にある海松貝錦の一部の貝模様なり。(四)は鳳凰にして古き模様なれども所傳詳ならず。(五)は蟋蟀の模様にして越前國敦賀西福寺藏矢立硯の模様なり。(六)は昔の鴛鴦緞子の模様なり。(七)は脹雀として雀のふくれたる正面を模様にしたるものにして春日驗記畫卷の中にあり。(八)は獅子の丸といふ。古きものなれども出所詳なら

ず。(九)は錦譜の中にある蝶、(十)は松喰鶴、(十一)は蟬の模様なり。以上各圖の名稱を授けたる後、前課にて寫生せしめたる花を便化せしめ、之を組合せて單獨模様を畫かしむべし。

二。注意

第二圖・第三圖の模様の出所は參考のため記したるものなれば、兒童には教授するに及ばず。

第三課　器物工作圖（兒童用第四圖）

寫生　三時間

要旨

器物の正面圖・平面圖・切斷面圖の畫方練習、並びに器物の用材によりて彩色を區別すること、及び中心線・切斷線・寸法線の畫方、寸法の記法等を知らしむ。

準備　寫生せしむべき器物。

教授

一。觀察と説明

兒童用書第四圖に掲げたる鑪の工作圖につきて觀察せしめ、左の事項を知らしむべし。

鑪の正面圖・平面圖・切斷面圖の各部の關係。

淡帶赤紫色は鋼鐵、淡黃色は黃銅、淡岱赭色は木材、赤線は切斷部なること。

本課に至るまでは寸法線に破線を用ひたりしが、色を用ふる場合には青の實線を用ひ、其の兩端の矢印のみを黑にて畫くこと。並びに弧線若しくは圓を表す半徑の寸法

線には中心部に矢印を用ひざること。

寸法の記法には一尺五寸三分を記すに(1)一尺五寸三分或は(2)1′-5″-3‴或は(3)1′.5″.3‴或は(4)1′5″3‴とすることあり。但し(1)(2)の如きは大なる圖にて數を記すに差支なき場合に用ひ、(3)(4)は面積を要せざるため小なる圖にて記數困難なる時に用ふること。

以上の觀察と説明とを終らば、準備したる器物の形狀・構造・用材の看取圖を畫かしめ、製圖上必要なる寸法を測りて記入せしめ、次に製圖に適當なる寸法に改算して後、縱横の中心線を定めて全部を製圖し且彩色せしむべし。

二。注意

參考圖は日常目擊するものにて成るべく多く異種の材料を用ひたるものを選びたれば、形狀・構造甚だ簡單なり。故に兒童に製圖せしむべきものには用材の種類少くして形狀・構造の複雜なるものを選ぶも可なり。

第四課　製圖用色圖（兒童用第五圖）

説明　一時間

要旨

工作圖の彩色は工作用材によりて色を區別することを知らしむ。

教授

一。觀察と説明

兒童用書第五圖を觀察せしめて、先づ鍛鐵には青色、鑄鐵に

は青色と赤色とを混合したる青勝の紫色の淡色鋼鐵には赤色と青色とを混合したる赤勝の紫色の淡色黃銅には黃色の淡きもの、銅には赤色と岱赭色とを混合したる岱赭勝の淡赤色を着くること、並びに木には淡岱赭色にて木理を畫き、又は木理を省きて平塗となすことあり、煉瓦には淡赤色、石には黃色の淡色、コンクリートには岱赭色に少しく黑を混じたる淡色、芝、草及び竹には綠色の稍淡きものを彩色することを知らしめ、且赤色の實線と黑の鏈線とは物體の中心線若しくは切斷部を表すに用ひ、青色の實線と黑の破線及び其の下なる鏈線とは寸法を表すに用ふることを敎ふべし。

次に各材料共、着色圖と並べて左方に畫きたるが如き線のみの記號は、着色せざる製圖に於ては材料の切斷面を表示するに用ふることを知らしむべし。

二。注意

製圖用の色別は工場により、又は人によりて多少異なりといへども略、共通のものなり。兒童用書に示したる色別は明治三十三年日本工學會にて選定し發表したるものの中につきて、最も必要なるもののみを出したるなり。

黃銅と石との記號に色も斜線も全く同一なるものを用ふるは、工作上一見して用材を誤解することなきによる。

第五課　果物

（兒童用第六圖第七圖）

寫生　二時間

要旨

果物の畫方を練習し、且背景の畫方を知らしむ。

準備　寫生せしむべき果物。

教授

一、觀察と説明

兒童用書第六圖及び第七圖は、兒童の果物寫生の參考と背景の説明用として之を掲げたるものなり。參考圖につきて左記の事項を觀察せしめたる後、寫生せしむべし。

第六圖桃の圖は、一は完全なる形にして一は割りたるものを畫きたり。割りたる桃の中央の暗き部分は、種子離れて凹くなりたる所を表せり。切口の彩色は最初淡赤色にて平塗し、其の未だ乾燥せざる間に濃赤色を加へて斑文を表したり。外部は完全なるものも割りたるものも表面滑なるが故に最初に淡綠色にて平に塗り、次に光にて照されたる部分を淡く凹部及び下部に濃き綠色の隈取を施し、最後に青色・赤色・黄色の三色にて作りたる鼠色の影と背景とを畫きたるものなり。

第七圖は第六圖と全く同一の畫方にて胡瓜と林檎とを畫きたるものなり。

第六圖と第七圖との背景は第一圖の櫻花の背景と其の畫方を異にせり。即ち此の兩圖の背景は、果物の圓みを表さんがために果物の明き方を暗く、果物の暗き方を明く表したり。

手本に就きて以上の説明をなしたる後、兒童に與へたる果

物につきて其の形狀・色彩・陰影・濃淡を觀察せしめ、輪廓を取り彩色を施さしむべし。

二。注意

背景は畫かれたる圖畫を成るべく美に表さんがために用ふるものなれば、其の色彩と濃淡とは常に畫かれたる圖畫の色彩と濃淡とに關係なかるべからず。然るに往往背景を無意味に用ひて却りて畫かれたる圖畫の美觀を損することあり、かかる背景は寧ろ畫かざるを可とす。故に背景を畫く場合は十分思考して後之を施さしむべし。

第六課　景色（兒童用第八圖第九圖）

寫生　三時間

要旨

景色の簡單なる畫方練習をなす。

準備　學校附近に於ける適當なる場所の選定。

教授

一。觀察と說明

實地の景色を寫生する前、豫め第八圖と第九圖とにつきて觀察せしめ、說明を與ふべし。

第八圖と第九圖とは景色を寫生する準備として、場所の選擇と其の場所の部分の切方とを知らしめんがために設けたる參考圖なり。故に此の兩圖には種種なる材料と種種なる形の圖とを示したり。

第八圖左上段は農家、左下段は小川、右上段は用水、右下段は

鎭守の森を畫きたるものなり。

第九圖左方の縱圖は寺の境內、中央の縱圖は山寺、右側の圖は田舍の土橋、下段の橫圖は海濱を畫きたるものなり。

手本につきて以上の說明を終らば、豫て選定したる場所に兒童を導き、實際の景色につきて、先づ如何なる場所の如何なる材料を如何なる位置より切取りて一つの圖となすべきかを看取せしめ、然る後縱圖にすべきか橫圖にすべきかを考へて筆を取り畫き始めしむべし。

畫方の順序方法等は、前學年にて學びたる方法によりて先づ大體の輪廓を定め、次第に細部分に畫き及し、後淡彩を施さしむべし。

二。注意

實際の景色につきて畫くべき位置を區劃するには、便宜上看取枠と稱するものを用ふるも可なれども、熟するに至らば之を用ひざるを可とす。

第二學期

第七課　器物（兒童用第十圖）

寫生　二時間

要旨

滑澤なる表面の器物の畫方練習をなす。

準備　塗物或は釉藥を施したる陶磁器。

教授

一。觀察と說明

寫生に先だちて、第十圖に示したる火鉢と煙草入との參考圖につきて左の事項を說明すべし。

總べて物體は其の表面の滑澤なると粗糙なるとによりて

其の色彩の現象を異にす。滑澤なる表面は之に投射したる光を強く反射するにより、多くは其の面固有の色を消失し、甚だしきは白色となるべし。之に反して粗糙なる面は光を反射すること弱きにより、全く其の固有の色を消失することなし。而して滑澤面は常に水氣を含みたる如き潤色あれども、粗糙なる表面は常に乾燥したるが如き感あり。故に滑澤なる表面の器物を畫くには、色彩に潤色を表すことに注意せざるべからず。

第十圖の火鉢は釉藥を施し表面滑にして光澤あるものを畫きたり。故に此の滑なる感を表さんがためには、彩色を丁寧にし、最初塗りたる繪具の未だ乾燥せざる內に次の繪具を加へて潤色を表したり。煙草入は漆器なるが爲に幾度も

隈取をなして滑澤なる感を出したるものなり。

此の背景は、火鉢の座りの安定なるを表すと煙草入の帶赤橙色の鮮明なる感を表すとの爲に、上方を淡く隈取にて畫き消し綠色を用ひたるものなり。

右の說明を終らば、準備したる器物の形狀・色澤・陰影等を觀察せしめて後、形狀彩色の順序に仕上げしむべし。

二。注意

火鉢・煙草入等の如き大さの器物なれば、五六人に一箇を準備せば十分なり。

第八課　植物（兒童用第十一圖）

寫生　三時間

要旨

毛筆にて花の畫方練習をなす。

準備　花。

教授

一。觀察と說明

第十一圖蝦夷菊は實物固有の色彩によりて彩色を施す日本畫風の彩色法の參考として掲げたり。之を觀察せしめて左の事項を知らしむべし。

本圖の彩色は、實物固有の色を寫すことを主とし、光線のために變化したる色を寫さざる畫方なり。此の畫方にありては、葉の表面を濃く裏面を淡くし、花瓣も葉と同樣に表面を濃く裏面を淡く彩色す。莖及び葉柄の部分は全部を平に塗

り、次に輪廓線に沿ひて隈取を施すか、或は單に輪廓線に沿ひて細き線を畫き、而して凹所は凸部よりも常に濃く彩色するものとす。

右彩色法を知らしめたる後、兒童各自に與へたる花を畫かしむべし。

二。注意

實物固有の色を用ひて畫く方法は博物學上に用ふる圖には最も便なる方法にして、所謂水彩畫など稱する彩色法よりも初學者には學び易し。されば兒童をしてよく此の方法を知らしめ置くべし。

同一の花を二三週間に跨りて寫生せしむることは困難なれば、毎時間部分的に寫生せしむるも可なり。

第九課　模樣（兒童用第十二圖第十三圖第十四圖）

考案畫　四時間

要旨

前課にて寫生せしめたる植物を應用して、四方連續模樣の考案をなさしむ。

準備　參考圖。

教授

一。觀察と說明

第十二圖・第十三圖・第十四圖の三圖は、兒童に考案せしむべき連續模樣の參考に掲げたるものにして、何れも我が國固有の古代模樣中より選擇したり。かく參考圖を日本古代模

様の中より選びたるは、成るべく兒童をして日本的趣味の模様の考案をなさしめんがためなり。

第十二圖上段の右圖は牡丹に唐草、左圖は立涌に松、下段の右圖は鱗形地に桐、左圖は小葵なり。

第十三圖上段の二方連續模様は齒朶菊唐草菖蒲花菱にして、下段の左は櫻花、中央は花輪違倭錦右は勝見唐草の四方連續模様なり。

第十四圖上段の二方連續模様は兎に波、牡丹に鳳凰にして、下段の左は龜甲地に向蝶、中央は立涌に鳳蝶、右は沙綾形地に燕の四方連續模様なり。

右三圖の配色は同色の配合、原色の配合、餘色の配合等種種あり、落附きて地味なるあり、鮮明にして華麗なるあり、冷かなるあり、暖かなるあり、故に模様の組立を知らしむると同時に其の配色と感情との關係につきて大要を知らしむべし。

右の説明を終りたる後、先づ前課に於て寫生したる花を便化せしめ、次に組合方を考案して後、更に配色を工夫せしむべし。

二、注意

兒童用書に示したる外、成るべく多く日本模様の參考物を示して日本模様の特徴を知らしむることに注意すべし。

第十課　圓柱相貫體の工作圖

説明と考案畫　三時間

要旨

圓柱の相貫體を畫かしめて、圓管の接合法を知らしむ。

準備　大小二箇の圓柱の相貫體。

教授

一。觀察と說明

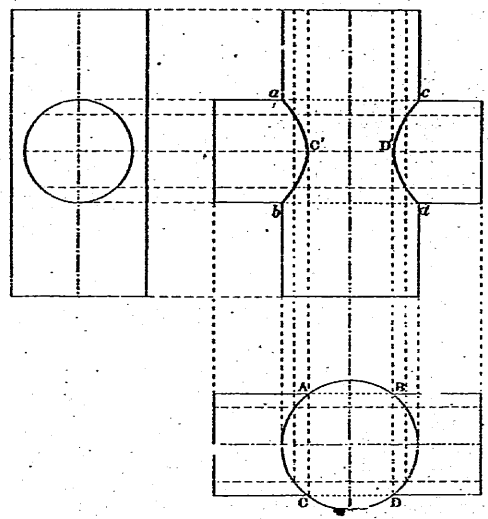
大小二箇の圓柱の相貫體の標本を示して、大なる圓柱と小なる圓柱との交叉して現れたる表面の交線を觀察せしめ、先づ平面圖を畫きてABCDの四點を求め、次に正面圖に於てC′D′點を求め、aC′b、cD′dの曲線を畫きて、大小二箇の圓柱の表面の交を表す。aC′b及びcD′dの曲線を精密に畫くには、aC′C′b、cD′D′dなる曲線中に多くの點を取りて結合するものとす。

本圖は極めて大要を知らしめんがためなれば、aC′C′b、cD′D′d間の點を設くることを略したり。

右の說明を終りたる後、上圖を畫かしめ、應用として圓柱と方柱との相貫體につきて練習を試みるべし。

二。注意

相貫體の標本は厚紙の如きものにて作り、之を分解し或は展開し得る如く作りたるものを便とす。



第十一課　模樣

考案畫　三時間

要旨

模樣の考案練習をなす。

準備　各種の模樣の參考圖、並びに實物に應用したる各種の模樣。

教授

兒童の考案に任せて隨意のものを工夫せしむべし。

教師は兒童の考案せしものにつき批評することに力を用ふべし。

第三學期

第十二課　器物

寫生　三時間

要旨

器物の畫方の應用練習をなす。

準備　寫生すべき標本。

教授

兒童をして寫生すべき標本の位置を定めしめ、其の位置の適否を批評して後、任意に寫生せしむべし。

教師は兒童の觀察に誤なきや否やにつき、兒童の畫きたるものと實物とを比較して批評することに力を注ぐべし。

第十三課　器物と模樣

考案畫　三時間

要旨

器物の形狀及び其の表面の模樣を考案せしむ。

準備　各種の器物の參考品。

教授

皿・鉢・茶碗・花瓶・硯箱等の内一種の形狀構造を考案せしめ、且其の表面の模樣を工夫せしむべし。

模樣の種類・材料等は總べて兒童の任意とす。

第十四課　家具工作圖

寫生　四時間

要旨

家具工作圖の畫方練習をなす。

準備　學校備品若しくは家庭に於ける家具を教授時間外に看取らしめ製圖上必要なる寸法を測り置かしむること。

教授

兒童各自の課外に看取したる圖につきて批評し、次に任意に考案して製圖せしむべし。

教師は形狀・構造・寸法等につき誤なきやう注意して批評すべし。

下圖を終らば中心線・寸法線及び用材を相當の色を用ひて表示せしむべし。

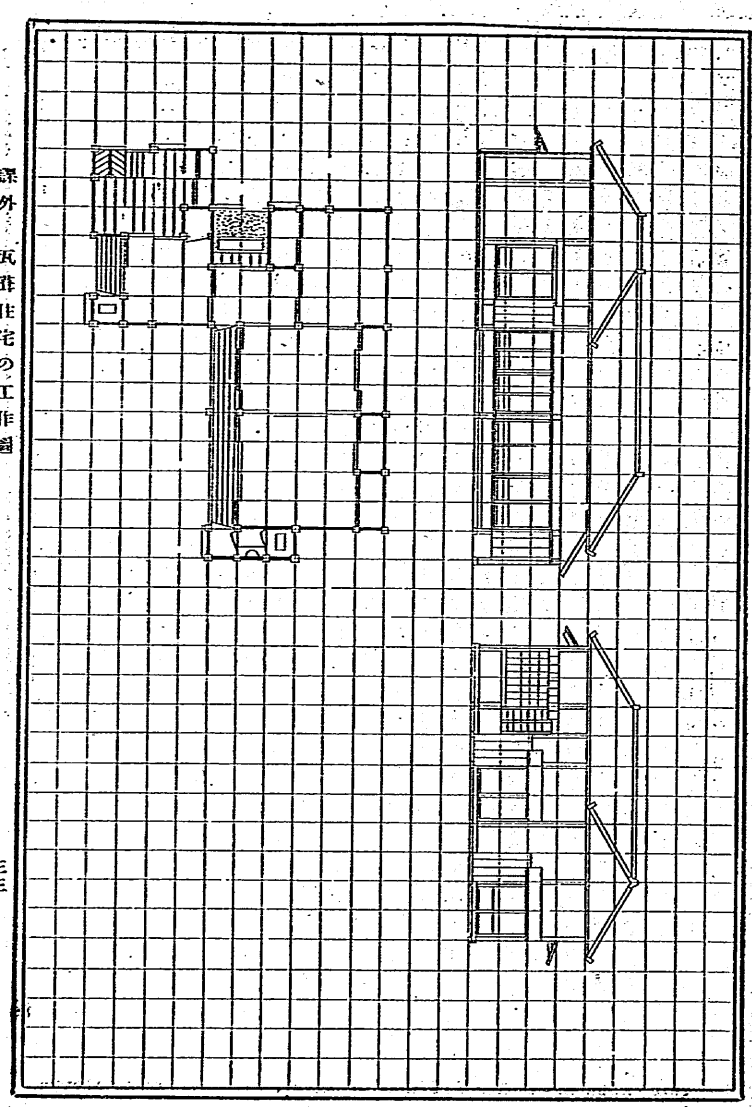
課外　瓦葺住宅の工作圖

要旨

瓦葺住宅の工作圖の大要を知らしむ。

教授

左の參考圖を參照して第二學年課外に於て說明したる符號を用ひ、正面圖・平面圖・側面圖の三圖を製圖せしむべし。但し製圖すべき住宅は學校の一部若しくは兒童各自の住宅を可とす。



K141.71-3-36
~~2/1317~~

高等小學新定畫帖 第三學年教師用 終

大正二年三月十日印刷
大正二年三月十三日發行
大正二年三月十四日翻刻印刷
大正二年三月二十日翻刻發行

高等小學新定畫帖
第三學年教師用

定價金五錢

大正二年三月十五日
文部省檢査濟

著作權所有

著作兼發行者 文部省

翻刻發行者 東京市小石川區指ヶ谷町百三十六番地
東京書籍株式會社
代表者 原亮一郎

印刷者 東京市日本橋區通一丁目十九番地
大倉保五郎

印刷所 東京市京橋區新榮町五丁目七番地
大倉印刷所

發賣所 東京市日本橋區新右衞門町十六番地
株式會社國定教科書共同販賣所

688